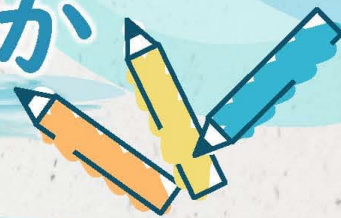




# 令和5年度 国語問題研究協議会

## 日本語をどう書くか



令和5年

8月23日 水

13:00~15:50

オンライン開催 (+登録者へのアーカイブ配信)

情報機器の普及で、誰もが発信者になれる時代、日本語の書かれ方にも変化が見られます。

現代社会において「日本語をどう書くか」について改めて考えてみませんか。



国の国語施策にも関わる、各分野を代表する有識者3名を迎えてのシンポジウムや国語に関する審議状況報告などを行います。

主催 文化庁

※ シンポジウムは13:50~

### シンポジウムの登壇者 (五十音順、敬称略)



長岡 由記

滋賀大学教育学部准教授。専門は国語科教育、文字教育。共著に、「新しい教職教育講座 教科教育編①初等国語科教育」(ミネルヴァ書房)、「新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究」(東洋館出版社)、「国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ」(渓水社)等。国語教科書の作成にも携わる。

### 武田 康宏 (シンポジウム進行)

文化庁主任国語調査官。「常用漢字表の字体・字形に関する指針」「公用文作成の考え方」等の取りまとめに関わる。



成川 祐一

共同通信社用語委員長。「記者ハンドブック 第12版、13版」(共同通信社)の作成に中心となって携わるなど、新聞の用字用語に精通。また、新聞用語懇談会のメンバーとして「新聞用語集2022年版」の作成に携わる。



森山 卓郎

早稲田大学教授。京都教育大学名誉教授。日本語学会理事。編著書に「日本語のく書き方」(岩波ジュニア新書)、「コミュニケーションの日本語」(同)、「あいまい・ぼんやり語辞典」(東京堂出版、編著)、「ここからはじまる日本語文法」(ひつじ書房)、「旺文社標準国語辞典 第八版」(旺文社、監修)等。国語教科書の作成にも携わる。



プログラム表・参加登録方法は裏面を御覧ください。